

# 平成 23 年度大学入試に関する説明会 特別講演資料

【検証】入学者選抜と高大接続

## 高大の“キャズム症候群”と“改善策”

—中教審ワーキンググループによる「議論のまとめ」から—

大学通信顧問 代田恭之

検証については、中央教育審議会答申/「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日)に先立つワーキンググループによる「議論のまとめ」(平成20年1月23日)に準拠。

【CONTENTS】

●プロローグ 入学者選抜と高大接続の機能不全

I. 「大学全入」で高大接続は「選抜から相互選択へ」

II. 高大接続の現状分析

III. 「大学全入」時代における高大接続の課題

IV. 高大接続の課題解決の方向性

V. 高大接続の改革の方策

VI. 大学進学資格の設定等

VII. 大学「選択」に必要な情報公開の徹底

VIII. 高校教育から大学教育へのより円滑な移行のために

●エピローグ 21世紀の高大ブリッジ戦略への期待

**【参考】 学士課程教育の構築に向けて(答申) (平成20年12月24日)**

## 第2章 学士課程教育における方針の明確化

## 第3章 入学者受け入れ方針について－高等学校段階の学習成果の適切な把握・評価を

## 1. 入学者選抜

## (1) 現状と課題

- ① いわゆる大学全入と高等学校教育・大学教育の新たな課題 (4項目)
- ② 入試方法の多様化の経緯と現状(6項目)
- ③ 高等学校教育への影響、特定の大学をめぐる過度の競争 (3項目)
- ④ 高等学校と大学の接続の在り方の見直し (2項目)

## (2) 改革の方向(4項目)

- ① 大学が選抜する時代から、大学と進学希望者とで相互選択する時代
- ② 高等学校と大学との接続の在り方を見直し
- ③ 高等学校及び大学関係者の緊密な連携
- ④ 「高大接続テスト(仮称)」の協議・検討、高等学校教育の質保証

## (3) 具体的な改善方策

[大学に期待される取組] (7項目)

- ◆(例) 高等学校との接続をより密にする観点から、求める資料の多様化や適切な活用を進める。

[国によって行われるべき支援・取組] (5項目)

- ◆(例) 高等学校段階の学力を客観的に把握・活用できる新たな仕組みづくりについて、高大接続の観点からの取組を進める。

## 2. 初年次における教育の配慮、高大連携

## (1) 現状と課題

- ① 初年次における教育上の配慮 (3項目)
- ② 高大連携 (1項目)

## (2) 改革の方向 (2項目)

- ① 補習・補完教育、初年次教育等の配慮
- ② 大学間の共同、補習・補完教育の負荷軽減、改革や個性・特色の理解徹底等

## (3) 具体的な改善方策

[大学に期待される取組] (3項目)

- ◆(例) 大学や学生の事情に応じて、補習補完教育の充実を図る。

[国によって行われるべき支援・取組] (3項目)

- ◆(例) 初年次教育や高大連携などに関する優れた実践に対して支援する。

以下、「議論のまとめ」に準拠。ただしプロローグならびエピローグは代田による

## ●プロローグ 入学者選抜と高大接続に機能不全

### I. 「大学全入」時代の高大接続は「選抜から相互選択へ」

「大学全入」時代に突入した今、選抜性の高い一部の大学を除き、従来の高大接続の入学選抜はその機能不全に陥り、高校では「教育の質保証」(学力)、大学では「入り口管理」(大学教育に必要な学力証明)に危機的状況を迎えつつある。そのためにも、高校・大学間の連携責任が強く求められる。

今後の高大接続には、大学が求める学生選択と、大学進学希望者が自らの能力・適正に基づく主体的な大学選択との両立、すなわち「相互選択」をいかに明確化するかといった抜本的スタンス(マッチング)の転換が急務。

### II. 高大接続の現状分析

- ① 高校における学習状況(「未履修」問題)
- ② 大学生の意識
- ③ 大学入試、初年次教育の現状

### III. 「大学全入」時代における高大接続の課題

- ① AO・推薦入試…「学力不問」の状況をどのように改善するか。
- ② 一般入試…大学教育に不可欠な「能力・適正」をどのように把握するか。

### IV. 高大接続の課題解決の方向性

- ① 入試方法の検証・見直し、入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)の見直し
- ② 正常な高校教育の確立、「未履修」問題の高校の教育姿勢、適切な卒業認定、単位認定、教職員の意識改革
- ③ 客観的指標(学びのマイルストーン〈里程標〉)の活用による学習の充実
- ④ 学習意欲の向上と高校・大学教育の質的改善
- ⑤ 新学力検査「高大接続テスト(仮称)」の実施検討(AO・推薦入試等に活用)

高等学校段階の学力を客観的に把握・活用できる新たな仕組み、いわゆる高大接続テスト(仮称)の協議・研究については、平成22年9月末までに文部科学省に最終報告書を提出予定。

## V. 高大接続の改革の方策

### ① 調査書の内容・活用方法の改善

「校内評価尺度」に多面性と客観性、教科別学習成果の具体的記載(信頼性と制度を高める)を。

1. 学習成績概評を各教科別に実施
2. 募集要項に調査書「特記事項」の具体的記載を明記(資格取得、検定試験成績等)
3. 学校の枠を超えた教育活動の質的充実と評価(教育委員会等との連携)

### ② 入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)の明確化

### ③ 推薦入試の改善

「大学全入」時代には基礎学力の把握(基礎学力の担保)、学習プロセスや成果を集積した学習ポートフォリオの活用。

### ④ AO入試の改善

#### 1. 基礎学力の把握方法の改善

担保なき学力、学力“無償化選抜”への警告、大学入試センター試験の成績利用・活用。

#### 2. AO入試の実施時期の見直し

青田買い、実施時期のルール化

### ⑤ 一般入試の改善

高校教育の質保証大学の入り口管理(学力検査と大学初年度教育との接続性)の改善。

大学入試センター試験の科目選択幅の改善(平成24年1月試験で一部実施)。

## VI. 大学進学資格の設定等

「大学進学資格判定試験」の実施案

高等学校卒業を大学進学の要件とせず、大学進学資格判定試験合格大学出願。ただし、高校教育形骸化が懸念される。

## VII. 大学「選択」に必要な情報公開の徹底

「相互選択」の実効性担保、高校・大学の情報公開(文部科学省にも要望)  
(平成23年4月1日から学校教育法改正で大学の教育情報公表の明確化へ)

## VIII. 高校教育から大学教育へのより円滑な移行のために

特にワーキンググループ WG では最後に、「大学全入」時代に対応すべき問題点として次の3点を強く指摘。

- ① 大学教育の質改善への戦略的構築(カリキュラムポリシー、出口管理等)
- ② 企業の学生表と採用の明確化(大学卒業者の受け入れ態勢の改善等)
- ③ 各大学の「競争」と「共同」の調和、地域ごとの個性ある大学の相互連携等

### ●エピローグ

21世紀の高大ブリッジ戦略への期待

以上

〈資料〉

- (1) 「最新版/大学進学ダイナミックス 60 年」(別紙)
- (2) 資料 A 「入学者受入れ方針について(図表)」  
(中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」より抜粋)
- (3) 資料 B 「高等学校での履修状況への配慮(図表)」  
(文部科学省高等教育局調査「大学における教育内容の改革状況(平成 20 年度)」より抜粋)
- (4) 「大学入試を考える」(「大学入試センター/入学者選抜機構」発足記念セミナー冊子)
- (5) 「Best National Universities」(U.S.News & World Report 2010)